

令和3年度群馬県病院事業の決算について（速報）

令和3年度病院事業決算は、11億8千8百万円の純利益となり、昨年度の決算と比較して、11億7千7百万円改善しました。

令和3年度からスタートした第五次病院改革プラン（R3～R6）に基づき、更なる経営改善を進めていきます。

【令和3年度純損益状況】

（単位：百万円）

	心臓血管	が ん	精 神	小 児	総務課	合 計
令和3年度 病院事業純損益（A）	73	885	255	117	▲142	1,188
病院事業収益	9,659	11,911	3,086	6,660	40	31,357
（うち繰入金）	(810)	(843)	(771)	(1,605)	(40)	(4,069)
病院事業費用	9,586	11,025	2,831	6,544	182	30,169
令和2年度 病院事業純損益（B）	55	290	83	▲215	▲202	12
病院事業収益	9,771	11,315	2,925	6,375	13	30,399
（うち繰入金）	(764)	(828)	(697)	(1,484)	(12)	(3,785)
病院事業費用	9,717	11,025	2,841	6,590	214	30,387
対前年度（A） - （B）	18	595	172	331	60	1,177

（注）数値は、表示単位未満を四捨五入しているため、端数により合計とは一致しないものがある。

【病院事業全体の決算見込みの状況】

収益については、入院収益の増（+1億8千2百万円）、外来収益の増（+2億4千万円）、新型コロナウイルス感染症関係補助金の増（+4億7千9百万円）等により、全体では9億5千8百万円の増加となりました。

費用については、減価償却費の減（▲1億7千7百万円）、給与費の減（▲8千9百万円）等により、全体では2億1千8百万円の減少となりました。

この結果、前年度と比較して純損益は11億7千7百万円改善し、11億8千8百万円の純利益となりました。

【参考】純損益の推移

（単位：百万円）

H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
▲162	▲202	▲5,007 ▲503	▲166	▲281	▲462	▲131	▲843	12	1,188

※H26年度実績の下段は会計制度改正に係る影響額を除いた試算額

【各病院の決算の状況（概要と今後の方針）】

○心臓血管センター

（概要）新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生等により入院患者数が減ったことで入院収益が減少したものの、外来収益の増加、新型コロナウイルス感染症関係補助金の受入れ等による医業外収益の増加、医業費用の減少等により、純損益は2年連続で黒字となりました。

（方針）本県心疾患医療の最後の砦として質の高い安全な高度専門医療を提供するとともに、入退院支援センターを活用した適切な病床運営や心臓リハビリ入院推進等に取り組むなど、引き続き運営の効率化を進め、収支の改善を図ります。

○がんセンター

（概要）外来患者数の増及び入院基本料に係る診療報酬上の算定区分の変更による診療単価の増により医業収益が増加したことに加え、新型コロナウイルス感染症関係補助金の受入れ等により医業外収益も増加し、純損益は2年連続で黒字となりました。

（方針）県内唯一のがん専門病院として、東毛地域を中心に最適な高度専門医療を提供するとともに、地域医療連携室による地域連携強化や新たな加算取得等により収支の改善を図ります。

○精神医療センター

（概要）新規入院患者の増や外来患者の増等により医業収益が増加したことに加え、新型コロナウイルス感染症関係補助金の受入れ等により医業外収益も増加し、純損益は平成27年度から7年連続の黒字となりました。

（方針）精神科救急医療の基幹病院としての役割や司法精神医療の要としての役割を担い、他の医療機関では対応困難な精神症状の患者への適切な医療の提供を行うとともに、アウトリーチ医療の更なる推進や効率的な病床運営により収支の改善を図ります。

○小児医療センター

（概要）患者数の増等により医業収益が増加したことに加え、新型コロナウイルス感染症関係補助金の受入れ等により医業外収益も増加し、純損益は平成30年度以来の黒字となりました。

（方針）県内唯一の小児専門病院として、高度で先進的な周産期・小児医療を安全に提供し、本県の三次医療及び北毛地域の二次救急医療に引き続き対応していくとともに、地域連携強化や効率的な病床運用により収支の改善を図ります。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

